

女子決勝戦評

絹川	35	8	vs	19	48	龍ヶ崎
		8		4		
		14		8		
		5		17		

絹川⑨のハイポストからのドライブでゲームスタート。両チームとも厳しいゾーンディフェンスからボールの奪取を狙う。絹川は⑨のハイポストジャンプシュート等で得点するが、龍ヶ崎⑦がリバウンドを支配。オフェンスでは基点となりリバウンドシュートやアウトレットパスから味方のシュートをアシスト。絹川のブザービートで1Qを終え、決勝として相応しい好プレーの連続だった。

絹川は2-2-1ゾーンプレスで相手のターンオーバーを狙い、④、⑦のロングシュートで得点を重ねる。絹川はこのクォーターもブザービートを決め、高い集中力を見せた。対する龍ヶ崎もマンツーマンディフェンスでプレッシャーをかけ、相手に簡単には得点を許さず、両チームとも我慢のクォーターとなった。

絹川は後半もゾーンプレスでスタート。スティールが決まり出し、④、⑦のロングシュートで連続得点をあげる。龍ヶ崎もゾーンプレスを突破し、厳しいゾーンディフェンスの中、⑦のリバウンド・シュート等を決め、簡単には追撃を許さず1点のリードを保ったまま最終クォーターに突入する。

絹川は⑨のドライブ、龍ヶ崎は④のロングシュートでスタート。絹川はドライブ、ロングシュートとシュートでオフェンスを終えるが、龍ヶ崎のディフェンスが得点を許さず、リバウンドを奪い、試合のペースを握る。徐々にリバウンド力に差が出て、龍ヶ崎⑦がバスケットカウント、ディフェンスリバウンドからブレイクを連発し、タイムアップとなった。両チームとも高い集中力、高い精度のプレーを見せ、最後まで観客を感動させる好ゲームだった。